

會 報

第 30 卷第 3 號 昭和 19 年 3 月

通常總會記事

昭和 19 年 2 月 15 日午後 5 時 30 分より東京都麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり

出席者：88 名

會長黒河内四郎君座長席に着き開會を宣し下記議事に就き出席會員の承認を得たり

1. 昭和 18 年度事業報告 (本號會告參照)
2. 昭和 18 年度決算報告 (本號會告參照)
3. 役員選舉の結果報告

會長 當選 914 票 鈴木雅次君
次點 1 票 吉町太郎一君

以下略す

副會長 當選 901 票 佐土原勳君
次點 2 票 三浦義男君

以下略す

常議員 當選 911 票 伊藤令二君
909 票 石川榮耀君
909 票 本間仁君
905 票 大森義文君
905 票 杉戸清君
904 票 星野陽一君
904 票 山岡包郎君
903 票 星莖和君
901 票 吉原正明君
900 票 水谷錦君
894 票 下山武夫君
890 票 齋藤久彌君
次點 3 票 大野博君
3 票 高野務君
3 票 坪田正造君
3 票 土井正中君

4. 特定期間中入會金免除の件を上程し全會一致の如く可決示定せり

「本會は昭和 19 年 1 月 1 日より昭和 19 年 12 月末日までに新に入會を承認せられたる正會員、准會員、學生會員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得」

以上を以て議事を了し、引續き下記優秀論文の著者に對し昭和 18 年土木賞牌の贈呈を行ふ

土木學會誌第 28 卷第 7, 8 號及第 29 卷第 2, 7 號登載

河西橋に關する報告及び研究

正會員 横道英雄君

土木學會誌第 28 卷第 5, 12 號及第 29 卷第 6, 10 號登載

乾燥砂の運動機構に就て

正會員 最上武雄君

土木學會誌第 29 卷第 11 號登載

コンクリートの壓縮に依る内部應力を求める新試験法

正會員 赤澤常雄君

次で黒河内會長の講演 (別項) あり午後 6 時 20 分閉會せり

會長講演終了後有志晚餐會を開會し、出席者 80 名午後 7 時 30 分散會せり (別項記事參照)

役 員 會

第 16 同理事會 (昭. 19, 1, 24)

第 10 常議員會

出席者：黒河内會長、鈴木副會長、瀧淵、福田兩理事、江藤常議員外 4 名、大河戸前會長、中村書記長、小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 臺灣支部昭和 19 年度收支豫算承認
2. 華北支部昭和 19 年度收支豫算承認
3. 飛行場急速建設論文審査委員長依囑
4. 西部支部總會及役員會議事

議 事

1. 臺灣支部昭和 18 年度收支決算報告を別紙 (省略) の通り承認
2. 華北支部昭和 18 年度收支決算報告を別紙 (省略) の通り承認
3. 土木學會誌論文集を會誌寄贈の箇所全部に寄贈することとせり
4. 昭和 18 年度土木賞牌贈呈優秀論文を別紙 (省

略)の通り決定

5. 昭和 19 年度支部交付金を別表(省略)の通り決定

6. 昭和 18 年度事業報告を別紙(省略)の通りとせり

7. 昭和 18 年度收支決算報告を別紙(省略)の通り承認

8. 役員改選投票開票日時並に立會役員を次の通りとせり

開票日 2月7日午前 11 時 20 分

立會役員 鈴木副會長、瀧淵、徳善兩理事、土井、正子兩常議員

9. 臺灣支部へ昭和 19 年度に於て特別交付金 1000 圓を交付することとせり

10. 入退會を別記の通り承認

臨時常議員會(昭. 19. 2. 7)

出席者: 鈴木副會長、瀧淵、徳善、江藤、正子各常議員、中村書記長、小野寺庶務主任外

昭和 19 年 1 月 24 日開催の常議員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に昭和 19 年度役員選舉投票の開票を執行せり、其結果は總會報告の如し

第 17 回理事會(昭. 19. 2. 14)

出席者: 黒河内會長、鈴木副會長、瀧淵理事外 4 名、中村書記長、小野寺庶務主任外 1 名

報 告

1. 關西支部總會議事

2. 東北支部役員選舉の結果

3. 北海道支部總會議事

4. 西部支部役員選舉の結果

5. 中國四國支部役員會議事

6. 滿洲土木學會役員會議事

7. 飛行場急速建設の新構想論文に對する審査の經過並に結果を鈴木委員長より報告

議 事

1. 關西支部長に高橋嘉一郎君を依囑

2. 東北支部長に内田泰郎君を依囑

3. 北海道支部長に岩崎雄治君を依囑

4. 西部支部長に後藤季總君を依囑

5. 華北支部長に山中良樹君、副支部長に長久保俊夫君を依囑

6. 關西支部昭和 18 年度收支決算を別紙(省略)の通り承認

7. 東北支部昭和 18 年度收支決算を別紙(省略)の通り承認

8. 北海道支部昭和 18 年度收支決算を別紙(省略)の通り承認

9. 中國四國支部昭和 18 年度收支決算を別紙(省略)の通り承認

10. 米元卓介君、神長龍介君の一時納付金 240 圓を基金に編入

第 2 回飛行場急速建設論文審査委員會(昭. 19. 1. 25)

出席者: 鈴木委員長、信澤委員外 8 名、村上幹事、黒河内會長、小野寺庶務主任

1. 各委員より提出せる採點表により一應順位に就き検討せり

2. 検討の結果 1 等、2 等なし、入選は佳作のみとせり

3. 佳作は杉山、前田、戸川 3 君の 3 篇と決定せり

4. 會誌登載可能は前田、戸川兩君の 2 篇なり

杉山君に對し上官の許可を得たるや又會誌發表支障なきやを照會すること

5. 論文の講評原案を星埜委員に於て作成し次回委員會にて審議すること

總 務 部 記 事

第 46 回對燭調查委員會(昭. 19. 2. 3)

出席者: 釘宮委員長、奥田委員外 4 名、小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上委員提出の 3-4-1「上水道の防空」、3-4-4「瓦斯」(供給施設)、3-3-6「航空港」グラ刷に對する審議を行ひたり

編 輯 部 記 事

第 2 回會誌編輯委員會(昭. 19. 2. 2)

出席者: 福田委員長、岡本、丹羽、藤森、須之内、五十嵐、千秋、最上、本間、新井各委員、村上編輯主任、内村、佐藤各囑託、上田書記

1. 第 29 卷第 12 號登載原稿謝禮決定の件

2. 第 29 卷第 12 號登載論文討議依頼先決定の件

3. 第 30 卷第 3 號登載原稿決定の件

4. 第 30 卷第 3 號に飛行場急速建設應募論文を登載する件

關西支部記事

第 17 同支部總會 (昭. 19. 1. 29)

出席者: 47 名

議 事

1. 事務報告
2. 會計報告
3. 役員選舉

結果 支部長當選 高橋嘉一郎君
 商議員當選 浦上衛門君 河村秀一君
 早崎金七君 長谷川勝伍君
 南野繁夫君 米谷榮二君
 川島喜一郎君 松倉新太郎君
 萩野輝君

以上議事終了後緒方敷彦君の講演及懇親會を開催

第 1 同役員會 (昭. 19. 1. 19)

出席者: 高橋支部長, 井上商議員外 3 名, 大鹽幹事
 長外 5 名

議 事

1. 昭和 18 年度事務報告
2. 昭和 18 年度決算報告

東北支部記事

役員改選 (昭. 19. 1. 31)

支部長當選 内田泰郎君
 商議員當選 加藤平吉君 高橋經徳君
 結城朝恭君 池田徳治君
 鈴木健二君
 幹事長 阿部清紀君

北海道支部記事

支部總會 (昭. 19. 1. 29)

出席者: 116 名

議 事

1. 昭和 18 年度事業及決算報告
2. 支部長選舉 當選 岩崎雄治君

以上議事終了後講演會及懇親會を開催

西部支部記事

役員改選

支部長 當選 後藤季總君
 商議員 當選 田中吉良君 桑野實代嗣君
 大島末彦君 八木三男君
 坂本一平君 岡本正君
 谷口謙亮君 今泉佳三郎君
 片岡謙君 和田重辰君
 早田成雄君
 幹事長 大野台助君

中國四國支部記事

役員會 (昭. 19. 1. 10)

出席者: 西岡支部長, 工藤幹事長, 竹重幹事外 2 名

議 事

1. 昭和 19 年度豫算の件
2. 昭和 18 年度決算の件
3. 昭和 19 年度事業に關する件
4. 役員選舉に關する件

滿洲土木學會記事

第 7 同役員會 (康. 10. 12. 27)

出席者: 本間會長, 照井理事, 藤原常議員外 3 名, 濱
 主事

議 事

1. 康德 11 年度事業計畫
2. 康德 11 年度豫算に關する件
3. 會員異動承認の件
4. 會誌寄贈交換の件其他

その他記事

土木學會誌第 50 卷第 2 號を發行成規の手續を了
 し會員に配布せり

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

西鮮中央鐵道株式會社	今 泉 茂 松	3 級
鹽水港製糖株式會社	田 口 彌 一 松 原 徹	2 級
臺灣船渠株式會社	王 井 喬 介 田 村 初 久	3 級
日糖興業株式會社臺灣支社	藤 山 勝 彦 齋 藤 憲 治	2 級

正 會 員 (入 會)

占 部 義 貫 大 坪 周 平 木 村 龍 藏 田 井 秀 雄 高 橋 清 玉 川 八 朗 治
近 松 重 雄 仲 鉢 俊 男 林 基 榮 彌 光 啓 吉 茂 原 信 義 岩 井 由 藏
岡 武 武 兵 戶 卓 也 知 原 重 太 郎 土 肥 慶 太 郎 西 原 淳 早 崎 金 七
宮 崎 太 橫 田 太 郎 渡 邊 格 一

准 會 員 (入 會)

淺 西 輝 八 郎 加 地 壽 男 衣 川 義 邦 黑 田 武 雄 小 林 元 酒 卷 勉 三
猿 渡 利 雄 下 宮 忠 義 新 原 久 登 一 新 沼 儀 一 郎 野 口 幸 一 高 橋 重 良 治 助 一
高 濱 野 正 學 林 泰 造 楡 垣 健 一 松 本 正 雄 橫 山 一 雄 西 口 儀 一
白 井 學

學 生 會 員 (入 會)

淺 井 敏 男 淺 見 信 井 田 至 春 石 井 一 郎 石 田 洋 司 石 原 毅
今 村 重 遠 岩 崎 兒 寬 宏 于 宗 孝 白 杵 正 榮 大 西 次 郎 音 羽 敬 三
葛 西 慶 喜 金 小 寺 一 雄 後 藤 博 芳 二 高 瀨 古 君 新 靈 近 倉 橋 藤 邦 二 佐 木 和 彦 水 正 郎 夫
黑 佐 野 孝 夫 宏 力 雄 登 中 櫻 村 弘 溫 津 中 村 和 太 吉 造 杉 本 堀 內 德 昌 行 村 松 英 四 郎 華
武 古 松 山 浦 下 芳 曠 登 山 名 義 二 隆 浦 義 二 隆 岡 貞 行 劉 英 華

正 會 員 (轉 格)

與野多喜夫 中 四

准 會 員 (轉 格)

木 村 政 實 趙 鴻 江 藤 木 友 雄 梅 田 良 雄

土 木 學 會 會 員 數 (昭. 19. 1. 24 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合 計
4	4 682	7 333	2 192	2 15	25	14 451

名譽會員 名井九介君 昭和 19 年 1 月 23 日薨去せられたり 本會は靈前に
弔詞並に花輪を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 土井正中君 昭和 19 年 2 月 11 日逝去せられたり 本會は靈前に
弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 高井久壽雄君 昭和 18 年 4 月戦死せられたり 本會は靈前に弔詞
を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 大木外次郎君 金子開一郎君 川越 篤君 黒須七郎君 小山友直君
近藤茂勝君 竹股一郎君 辻 太郎君 野瀬正人君 松井精二郎君の
訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 下田子之助君 弘光敏世君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表
す

學生會員 稻田文男君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

正 誤 訂 正 表

相對二邊に於て支承せられる矩形版が彈性基礎上に在る場合の彎曲、並に其他の彈性諸問題の研究 (其の一)

(第 29 卷第 11 號所載)

正會員 工學博士 原口 忠次郎

頁	行	誤	正
788 頁	欄 外	內務省中國四國地方土木出張所長	內務省中國四國土木出張所長
788 頁	下ヨリ 2 行	$\frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 x}{\partial x^2 \xi y^2} + \dots$	$\frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + \dots$
789 頁	上ヨリ 5 行	(B), (C) 圖-1	圖-1 (B), (C)
同	下ヨリ 4 行	$\frac{\partial^4 x}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + \dots \dots \dots (b)$	$\frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + \dots \dots \dots (b)$
793 頁	上ヨリ 3 行	$\dots \sin m\pi\eta_1 \dots \dots \dots (12)$	$\dots \sin m\pi\xi_1 \dots \dots \dots (12)$
同	下ヨリ 7 行	$m=1, 2, 3, 4, \dots \infty,$	$m=1, 2, 3, 4, \dots \infty, n=1, 3, 5, \dots \infty$
794 頁	上ヨリ 4 行	$A_{mn} = \frac{16 P_0}{N\pi^2 mn \rho_{mn}} \sin \dots \dots (16)$	$A_{mn} = \frac{16 p_0}{K\pi^2 mn \rho_{mn}} \sin \dots \dots (16)$
798 頁	上ヨリ 4 行	$\left. \left(D^2 - \pi^2 \frac{a^2}{b^2} n^2 + i a^2 \lambda_2 \right) = 0 \right\}$	$\left. \left(D^2 - \pi^2 \frac{a^2}{b^2} n^2 + i a^2 \lambda^2 \right) = 0 \right\}$
800 頁	下ヨリ 9 行	$\left. \frac{\cosh K_n' \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\cosh \frac{\pi}{2} K_n'} \right\}$	$\left. \frac{\cosh \pi K_n' \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\cosh \frac{\pi}{2} K_n'} \right\}$
804 頁	下ヨリ 10 行	$\frac{K_n}{K_n'} = \sqrt{\dots}$	$\frac{K_n}{K_n'} = \sqrt{\dots}$
同	下ヨリ 9 行	但し $\frac{p_n}{q_n} = \sqrt{\dots}$	但し $\frac{p_n}{q_n} = \sqrt{\dots}$
同	下ヨリ 7 行	$\sum \frac{1}{m \rho_m} \cos m\pi\xi =$	$\sum \frac{1}{m \rho_{mn}} \cos m\pi\xi =$
805 頁	上ヨリ 4 行	$\left. - \frac{a^2 n^2}{b^2} u_{n,\xi} \right\}$	$\left. - \frac{a^2 n^2}{b^2} u_{n,\xi} \right\}$
806 頁	最下行	$\left. - u_{n,\xi - \xi_0 + \xi_1} \right] \dots$	$\left. - u_{n,\xi - \xi_0 + \xi_1} \right] \dots$
807 頁	下ヨリ 5 行	$p_n R_{n,\xi} +$	$p_n R'_{n,\xi} +$
808 頁	1 行目	$E_n =$	$F_n =$
同	上ヨリ 2 行	$q_n S_{n,\xi}$	$q_n S'_{n,\xi}$
同	上ヨリ 7 行	$R_{n,\xi} =$	$R'_{n,\xi} =$
同	下ヨリ 11 行	$= U_{n,\xi_0 - \xi_1 + \xi} \dots + u_{n,\xi_0 + \xi_1 -}$	$= u_{n,\xi_0 - \xi_1 + \xi} \dots + u_{n,\xi_0 + \xi_1 - \xi}$
809 頁	上ヨリ 13 行	$n^2 \phi(y) \}$	$n^2 \phi(x) \}$
同	下ヨリ 7 行	p_0 なる等分布荷重が	p_x, v なる分布荷重が
810 頁	下ヨリ 7 行	\cosh	\cosh
811 頁	下ヨリ 8 行	$-(2-\nu) \frac{a^2 \lambda^2}{\pi^2} \phi_1(x) -$	$-(2-\nu) \frac{a^2 \lambda^2}{\pi^2} \phi_1(x) -$
813 頁	上ヨリ 5 行	$\frac{\sinh \pi K_n \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\sinh \frac{\pi}{2} K_n'} +$	$\frac{\sinh \pi K_n' \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\sinh \frac{\pi}{2} K_n'} +$

正誤訂正表 (其 二)

頁	行	誤	正
816 頁	下ヨリ 3 行	$\left. \begin{array}{l} \sinh m\pi\eta \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \sin n\pi\eta \end{array} \right\}$
817 頁	上ヨリ 10 行	$\{m_2 +$	$\{m^2 +$
同	下ヨリ 10 行	$\sum_n \left\{ E_n \right.$	$\sum_n \left\{ E_n \right.$
同	下ヨリ 6 行	$\left. + \frac{h^2 n^2}{b^2} \right\}$	$\left. + \frac{\alpha^2 n^2}{b^2} \right\}$
同	下ヨリ 3 行	$-a_n'$	$-a_n'$
818 頁	下ヨリ 9 行	4. $\frac{\partial^3 w}{\partial x^3} + (2-\nu) \frac{\partial^3 w}{\partial x \partial y^2}$	4. $\frac{\partial^3 w}{\partial x^3} + (2-\nu) \frac{\partial^3 w}{\partial x \partial y^2} = 0$
818 頁	下ヨリ 2 行	$= A_n \cosh \pi K_n \dots + B_n' \sinh \pi K_n' \dots$	$= A_n \cosh \pi K_n \dots + B_n' \sinh \pi K_n' \dots$
819 頁	下ヨリ 11 行	$w = \sum_n \left[A_n \right.$	$w = \sum_n \left[(A_n \right.$
820 頁	上ヨリ 5 行	$\left. - (1-\nu) \frac{\alpha^2 n^2}{b^2} \cos \pi q_n \right) p_n -$	$\left. - (1-\nu) \frac{\alpha^2 n^2}{b^2} \sin \pi q_n \right) p_n -$
同	上ヨリ 13 行	$a_n = -2 \sum_n A_m m$	$a_n = -2 \sum_n A_m m$
821 頁	上ヨリ 2 行	$\cos \pi q_n \xi \left. \right\}$	$\cos \pi q_n \xi \left. \right\}$
同	上ヨリ 6 行	$\cos \pi q_n \xi \left. \right\}$	$\cos \pi q_n \xi \left. \right\}$
822 頁	下ヨリ 3 行	$\left\{ K_n'^2 - \frac{\nu \alpha^2}{b^2} n^2 \right\}$	$\left\{ \left(K_n'^2 - \frac{\nu \alpha^2}{b^2} n^2 \right) \right\}$
823 頁	上ヨリ 5 行	$\lim_{\lambda \rightarrow 0} (K_n' - K_n) = 0$	$\lim_{\lambda \rightarrow 0} (K_n' - K_n) = 0$
823 頁	上ヨリ 10 行	$\frac{\cosh \pi K_n' \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\cosh \frac{\pi}{2} K_n'}$	$\frac{\cosh \pi K_n' \left(\frac{1}{2} - \xi \right)}{\cosh \frac{\pi}{2} K_n'}$
824 頁	上ヨリ 10 行	$\alpha_n^3 \{ (3-\nu)$	$\alpha_n^3 \{ (3+\nu)$
同	下ヨリ 3 行	更に (35) 式の形に	更に (35) ₁ 式の形に
826 頁	上ヨリ 6 行	$\left\{ \tanh \frac{\pi}{2} \alpha_n \left(\right. \right.$	$\times \left\{ \tanh \frac{\pi}{2} \alpha_n \left(\right. \right.$
	下ヨリ 3 行	$\left. + 2(1+\nu) \rho(x) \right)$	$\left. + 2(1+\nu) \phi(x) \right)$
827 頁	上ヨリ 7 行	$\phi(x) =$	$\psi(x) =$
同	上ヨリ 8 行	$\phi_1(x) =$	$\psi_1(x) =$
827 頁	下ヨリ 3, 4 行	$\phi(x), \phi_1(x)$ は夫々 $\psi(x), \psi_1(x)$ の誤りなるもこゝでは $\psi(x) = \dots \psi_1(x) = \dots$ の兩式は不要なり。	

會 告

昭和 18 年度事業報告並に決算報告

昭和 18 年度事業報告

理事	黒河内四郎	同	鈴木雅次
同	内海清温	同	瀧淵實烈
同	山下輝夫	同	福田武雄
同	信澤貞治	同	徳善義光
同	鈴木清一		

昭和 18 年度事業の概要を下記の通り報告す。

1. 會 合

昭和 18 年 2 月 15 日午後 5 時より麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く、出席者 83 名にして會長草間 偉君議長席に着き、昭和 17 年度事業報告並に決算報告及び役員選挙の結果を報告し、次で特定期間中入會金免除の件並に本會名譽會員推舉の件を附議し全會一致を以て原案を可決確定、續いて昭和 17 年度優秀論文に對し土木賞牌の贈呈を行ひ終つて草間會長の講演「大東亞戦争と土木技術者の責任」ありたり。

前記以外本年度に於ける 諸會合は理事會 16 回、常議員會 11 回、文化映畫委員會 2 回、對爆調査委員會 19 回、建設機械研究委員會 5 回、規格番號調査委員會 4 回、會誌編輯委員會 12 回、第 5 回日本工學大會土木部講演委員會 3 回、コンクリート調査委員會 4 回、昭和 17 年潮害調査委員會 5 回、鳥取地震調査委員會 5 回、戰時規格委員會 7 回、大東亞建設調査委員會 7 回、午餐會 3 回、晚餐會 1 回なり。

2. 役員選挙並に理事選任及び部長就任

昭和 18 年 2 月 6 日定款第 22 條に依り會長草間 偉君、副會長黒田武定君、常議員青木楠男君、岩崎壁吉君、内山 實君、大石 勇君、小林紫助君、齋藤四郎君、酒井 勇君、櫻井英記君、澤 勝藏君、野坂相如君、堀越一三君、森 豐吉君任期滿了並に常議員田中 孝君辭任に就き定款第 18 條、第 21 條及規則第 15 條に依り正會員の投票を以て選挙を行ひ當選したる役員氏名下記の如し。

會 長	黒河内四郎君			
副會長	内海清温君			
常議員	岩澤忠恭君	黒田 靜 夫君	高木 義 照君	徳善義光君
	江 藤 智君	土井源三良君	大川 一 郎君	久 保 讓君
	淨法寺朝美君	鶴 飼 孝 造君	正 子 重 三君	藤 芳 義 男君
補 缺	兼 岩 傳 一君			

昭和 18 年 2 月 22 日定款第 19 條に依り常議員會に於て理事 6 名の選挙を行ひ當選したる理事氏名下記の如し。

理 事	瀧淵實烈君	山下輝夫君	福田武雄君	信澤貞治君
	徳善義光君	鈴木清一君		

昭和 18 年 2 月 22 日規則第 23 條に依り選任せられたる各部々長下記の如し。

總務部長	瀧 淵 實 烈君	經理部長	山 下 輝 夫君
編輯部長	福 田 武 雄君	調査部長	信 澤 貞 治君
法制部長	徳 善 義 光君	東亞部長	鈴 木 清 一君

3. 名譽會員推舉

昭和 18 年 2 月 15 日定款第 9 條により通常總會に於て下記諸君を土木學會名譽會員に推舉せり。

名譽會員 丹 羽 鋤 彦君 名 井 九 介君 那 波 光 雄君

4. 委員會設置並に委員依囑及委員會の経過

(1) 委員會設置及び委員依囑

昭和 18 年 1 月 25 日コンクリート調査委員會委員に藤森謙一君を依囑せり。

昭和 18 年 1 月 25 日建設機械研究委員會委員に高木義照君、西條容七君を依囑せり。

昭和 18 年 2 月 8 日昭和 17 年潮害調査委員會を設置し、委員長及び委員に下記諸君を依囑せり。

委員 長 金 子 源 一 郎君

委 員 岡 部 一 郎君 市 村 益 夫君 菊 池 明君 黒 田 靜 夫君
佐 藤 清 一君 千 秋 邦 夫君 富 田 惠 吉君 水 谷 勝 君

幹 事 石 井 靖 丸君

昭和 18 年 2 月 8 日規格番號調査委員會を設置し、委員長及び委員に下記諸君を依囑せり。

委員 長 青 木 楠 男君

委 員 大 野 博君、杉 戸 清君

幹 事 村 上 永 一君

昭和 18 年 2 月 8 日建設機械研究委員會委員に加藤三重次君、糸川一郎君を依囑せり。

昭和 18 年 3 月 8 日會誌編輯委員會委員長及び委員に下記諸君を依囑せり。

委員 長 福 田 武 雄君

委 員 東 壽君 五十嵐 醇三君 岡 本 舜 三君、杉 戸 清君
須之内文雄君 千 秋 邦 夫君 丹 羽 良 彦君 藤 森 謙 一君
星 野 陽 一君 本 間 仁君 最 上 武 雄君 米 屋 秀 三君

昭和 18 年 3 月 8 日大東亞建設調査委員會委員に鈴木清一君を依囑せり。

昭和 18 年 3 月 22 日日本工學會本會選出評議員青木楠男君の後任に瀧淵實烈君を依囑せり。

昭和 18 年 3 月 22 日第 5 回日本工學大會本會選出委員に下記諸君を依囑せり。

大會委員 瀧 淵 實 烈君 講演委員 菊 池 明君
庶務委員 中 村 孫 一君

昭和 18 年 4 月 5 日大東亞建設調査委員會委員に瀧淵實烈君、比田 正君を依囑せり。

昭和 18 年 4 月 26 日大東亞建設調査委員會委員に岡部二郎君、藤芳義男君を依囑せり。

昭和 18 年 5 月 24 日會誌編輯委員會委員に新井義輔君を依囑せり。

昭和 18 年 5 月 24 日建設機械研究委員會委員に村山朔郎君、森田紀元君を依囑せり。

昭和 18 年 6 月 7 日第 5 回日本工學會大會土木部會講演委員會を設置し、委員長及委員に下記諸君を依嘱せり。

委員長 福田 武雄君
 委員 東 壽君 五十嵐 醇三君 岡本 舜三君 須之内 文雄君
 杉戸 清君 千秋 邦夫君 丹羽 良彦君 藤森 謙一君
 星野 陽一君 本間 仁君 最上 武雄君 新井 義輔君

昭和 18 年 6 月 14 日戰時規格委員會を設置し、委員長に青山 士君を依嘱せり。

昭和 18 年 7 月 12 日戰時規格委員會委員に下記諸君を依嘱せり。

委員 江藤 禮君 内山 實君 大石 重成君 大野 博君
 片平 信貴君 熊川 信之君 國分 正胤君 淨法寺 朝美君
 高畑 政信君 南保 賀君 星 莖 和君

昭和 18 年 7 月 22 日戰時規格委員會委員に下記諸君を依嘱せり。

委員 青木 楠男君 内海 清温君 菊池 明君 黒田 武定君
 佐藤 寛政君 田中 豊君 沼田 政矩君 平井 敦君
 廣瀬 孝六郎君 吉田 徳次郎君

昭和 18 年 9 月 13 日昭和 17 年潮害調査委員會副委員長及び特別委員に下記兩君を依嘱せり。

副委員長 青木 楠男君
 特別委員 桑原 竹二君

昭和 18 年 9 月 13 日鳥取地震調査委員會を設置し、委員長に吉田徳次郎君を依嘱せり。

昭和 18 年 9 月 27 日對燥調査委員會委員に下記諸君を依嘱せり。

委員 河原 清一郎君 根來 幸次郎君 登川 圭一君

昭和 18 年 10 月 18 日建設機械研究委員會委員に野瀬正儀君、川村滿雄君を依嘱せり。

昭和 18 年 10 月 18 日昭和 17 年潮害調査委員會委員に下記諸君を依嘱せり。

委員 兼重 信雄君 高野 務君
 特別委員 長濱 時雄君 山口 徳兵衛君 竹内 常八君 田沼 實君
 金津 尙一君 田中 弘顯君 西村 正人君 高村 千代作君
 河村 協君 飯田 一實君 後藤 季總君 大野 臺助君
 西部 友吉君 江口 辰五郎君

昭和 18 年 10 月 18 日西部地方風水害調査委員會を設置し、委員長に金古久次君を依嘱せり。

昭和 18 年 11 月 8 日昭和 17 年潮害調査委員會特別委員に佐分利三雄君、堀 清君を依嘱せり。

昭和 18 年 11 月 8 日規格番號調査委員會委員に下記諸君を依嘱せり。

委員 東 壽君 草間 康二君 高野 務君 星野 陽一君
 村山 朔郎君 山内 一郎君

(2) 委員會の経過

對燥調査委員會 防空土木施設に關する恒久對策の資料たらしむるため、内地、外地に於ける凡ゆる文獻を蒐集して之を抄録し、數次に互り土木學會誌に發表、引續き調査を進めつゝあり。

建設機械研究委員會 我國建設機械の充實、水準の向上生産の増大等之が標準化の調査研究を目的とし、委員

會設置以來、日本學術振興會第 55 委員會の援助を得て鋭意調査研究を進めつゝあり。

規格番號調査委員會 技術院工業規格中土木部門に於ける規格番號の整備統一を図り將來の運用に便ならしむる目的を以て委員設置以來鋭意調査研究を進めつゝあり。

會誌編輯委員會 専ら土木學會誌の編纂に關し審査し、傍ら會誌内容の改善に就き攻究しつゝあり。

日本工學大會土木部會講演委員會 第 5 回日本工學大會土木部會講演に關し準備を進めつゝあり。

早害調査委員會 委員會設置以來鋭意調査を行ひ漸く調査の完了を見るに至りたるを以て本委員會を解散せり。

土木學會コンクリート調査委員會 無筋コンクリート標準示方書の制定に對する調査研究の結果成案を得て之を發表し引續き同解説に就き調査研究を進めつゝあり。

昭和 17 年潮害調査委員會 昭和 17 年 8 月中國、四國、九州地方に起りたる高潮に依る災害を調査し將來對策の參考資料たらしむるため委員會設置以來關係地方と連絡し之が調査を進めつゝあり。

戰時規格委員會 土木部門に於ける戰時規格の作成、特に科學技術審議會よりの諮問に對する答申案に就き特別委員會を設け鋭意調査研究の結果成案を得て答申し、引續き他の規格作成に就き調査を進めつゝあり。

鳥取地震調査委員會 昭和 18 年 9 月鳥取地方に起りたる地震の土木工事に及ぼしたる災害に就き委員會設置以來鋭意調査を行ひたる結果約 1 ケ月にて調査完了を見るに至りたるを以て本委員會を解散せり。

大東亞建設調査委員會 大東亞共榮圈に於ける土木建設の適切なる方策を調査攻究するため委員會設置以來研究調査を進めつゝあり。

5. 支部設置並に支部長及副支部長就任

昭和 18 年 1 月 11 日土木學會華北支部副支部長補缺選挙の結果山中良樹君當選せり。

昭和 18 年 2 月 8 日土木學會關西支部支部長任期滿了に就き改選の結果高橋逸夫君當選就任せり。

昭和 18 年 2 月 8 日土木學會中部支部支部長任期滿了に就き改選の結果花井又太郎君當選就任せり。

昭和 18 年 2 月 8 日土木學會北海道支部支部長任期滿了に就き改選の結果井口鹿象君當選就任せり。

昭和 18 年 2 月 8 日土木學會東北支部支部長任期滿了に就き改選の結果西田敏夫君當選就任せり。

昭和 18 年 5 月 24 日土木學會中國四國支部支部長任期滿了に就き改選の結果西岡宏治君當選就任せり。

昭和 18 年 6 月 7 日臺灣支部設置を承認せり。

昭和 18 年 6 月 7 日土木學會臺灣支部支部長に松本虎太郎君當選就任せり。

昭和 18 年 11 月 8 日土木學會朝鮮支部支部長任期滿了に就き改選の結果清水幸次君當選就任せり。

6. 會誌其の他の發行

昭和 18 年度中土木學會誌第 29 卷第 1 號より第 12 號まで並に鉄筋コンクリート標準示方書及同解説を發行せり。

7. 登記並に申請事項

昭和 18 年 2 月 15 日通常總會に於ける理事（會長、副會長）の改選及び資産の總額を 234,033.70 圓と變更の件は同年 3 月 12 日其の登記を了せり。

昭和 18 年 2 月 22 日常議員會に於ける理事 6 名改選の件は同年 3 月 12 日其の登記を了せり。

8. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 27 卷第 10, 11 號及第 28 卷第 3, 4 號所載正會員安藝敏一君著「河相論 主として河相と河川工法との關聯性に就ての研究」と題する論文に對し昭和 17 年度土木賞牌を贈呈せり。

9. 支部事業の概要

昭和 18 年度中に於ける支部事業の概要下記の如し。

關西支部 昭和 18 年 1 月 27 日中央電気俱樂部に於て第 16 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で役員選挙を行ひ、引續き吉田 淳君の講演ありたり。

前記の外諸會合役員會 6 回、土曜會 6 回、幹事會 4 回、通俗講演會 1 回、座談會 4 回、調査研究會 1 回、土木工學研究會 3 回、見學會 2 回、委員會 10 回なり。

東北支部 昭和 18 年 7 月 24 日花巻温泉松雲閣に於て第 6 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で若林正次君、遠藤 靖君の講演及び視察見學旅行を行ひたり。

前記の外諸會合役員會 4 回、幹事會 5 回、講演會 1 回なり。

北海道支部 昭和 18 年 1 月 23 日札幌鐵道集會所に於て第 6 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で支部長の選挙を行ひ、引續き小林勝索君、齋藤靜脩君其他の講演及び映畫ありたり。

前記の外諸會合役員會 2 回、幹事會 3 回、講演會 2 回、講習會 1 回、晚餐會 2 回なり。

中部支部 昭和 18 年度中に於ける諸會合は役員會 1 回、幹事會 1 回なり。

西部支部 昭和 18 年 12 月 5 日大和ホテルに於て第 5 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で講演會を催したり。

前記の外諸會合役員會 3 回、幹事會 4 回、講演會 1 回、講習會 1 回なり。

朝鮮支部 昭和 18 年 10 月 16 日朝鮮遞信事業會館に於て第 4 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で役員選挙を行ひ、引續き平井邦次君、永井莊七郎君の講演及び映畫並に見學會を催したり。

前記の外諸會合役員會 3 回、見學會 1 回なり。

華北支部 昭和 18 年度中に於ける諸會合は役員會 4 回、幹事會 5 回、委員會 25 回、講習會 5 回なり。

中國四國支部 昭和 18 年 5 月 16 日高松市香川縣會議事堂に於て第 3 回支部總會を開き昭和 17 年度事業及び決算報告を爲し、次で延兼數之助君、一木保夫君の講演ありたり。

昭和 18 年 6 月 6 日徳島高工講堂に於て徳島縣部會を開き會務報告を爲し、次で竹内常八君、青木桶男君、水谷 鏘君の講演及び映畫あり、引續き鳴門海峽隧道豫定地の視察を行ひたり。

前記の外諸會合役員會 3 回、幹事會 1 回なり。

臺灣支部 昭和 18 年 12 月 4 日臺北市公會堂に於て支部創立總會を開き支部設立經過報告及び來賓臺灣帝國大學總長、臺灣電力株式會社々長の祝詞あり、引續き磯田謙雄君、安藤一雄君、原 直久君の講演ありたり。

10. 會員數

昭和 18 年度に於ける入會者は正會員 160 名、(内准會員より轉格したる者 24 名) 准會員 1020 名、(内學生會員より轉格したる者 654 名) 學生會員 1294 名、特別會員 76 名合計 2550 名にして死亡者は名譽會員 1 名、正會員 66 名、准會員 49 名、學生會員 3 名合計 119 名、退會者は正會員 64 名、准會員 160 名、學生會員 39 名、特別會員 6 名合計 269 名なり。

而して昭和 18 年 12 月末日に於ける現在數は名譽會員 4 名、正會員 4673 名、准會員 7334 名、學生會員 2150 名、特別會員 211 名、賛助會員 25 名合計 14397 名なり。

昭和 18 年度決算 (自昭和 18 年 1 月 1 日 至昭和 18 年 12 月 31 日)

理事 黒 河 内 四 郎

同 鈴 木 雅 次 同 福 田 武 雄

同 内 海 清 温 同 信 澤 貞 治

同 瀧 淵 資 烈 同 德 善 義 光

同 山 下 輝 夫 同 鈴 木 清 一

普 通 經 費

收 入 之 部

1. 會 費	83 809.14
1. 雜 收 入	7 891.44
1. 繰 入 金	6 457.52
合 計	98 158.10

支 出 之 部

1. 事 務 費	35 361.30
1. 會 誌 費	44 983.78
1. 會 議 費	3 331.39
1. 負 擔 金	330.63
1. 交 付 金	14 101.00
合 計	98 158.10

特 別 經 費

收 入 之 部

1. 會 費	35 808.40
1. 雜 收 入	6 885.29
1. 繰 入 金	6 386.70
合 計	49 080.39

支 出 之 部

1. 事 業 費	12 446.61
1. 交 付 金	20 691.25
1. 諸 費	15 942.53
合 計	49 080.39

事 業 資 金

收 入 之 部

1. 前年度繰越金	26 638.95
-----------	-----------

支 出 之 部

1. 普通経費へ繰入	6 457.52
1. 特別経費へ繰入	6 386.70
1. 翌年度へ繰越金	13 794.73
合 計	26 638.95

基 金

收 入 之 部

1. 前年度繰越金	152 188.98
1. 組入指定利子	287.09
1. 一時納付會費受入	1 320.00
合 計	153 796.07

支 出 之 部

1. 翌年度へ繰越金	153 796.07
------------	------------

基 金 内 譯

故古市公威、沖野忠雄兩博士記念基金	21 883.43
故白石直治博士	19 456.81

故山崎鉦次郎博士	2 061.18
故原田貞介博士	4 027.68

故廣井 勇博士	"	9 763.90	故中山秀三郎博士	"	2 033.33
故小川梅三郎博士	"	1 357.11	一 岡崎文吉博士	"	1 141.67
故富田保一郎博士	"	676.20	故野口誠君	"	1 000.00
故石黒五十二博士	"	8 674.76	故中川吉造博士	"	3 000.00
故近藤虎五郎博士	"	6 690.51	故廣井勇博士土木賞牌基金		628.75
故中島銳治博士	"	3 939.31	故古市公威博士	"	515.78
故阪田貞明君	"	1 513.96	故來島良亮君	"	511.83
故岡崎芳樹博士	"	2 407.33	故中山秀三郎博士	"	508.33
故太田圓三君	"	3 186.77	故物部長穗博士	"	600.00
故坂本雅雄君	"	557.16	積立基金		34 653.00
故川上浩二郎博士	"	1 007.27	關西支部維持基金		22 000.00
			合 計		153,796.07

資産負債對照表 (昭和 18 年 12 月 31 日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
1. 有 價 證 券	102 090.00	1. 基 金	153 796.07
1. 信 託 預 金	39 500.00	1. 事 業 資 金	137 94.73
1. 振 替 貯 金	10 549.60	1. 圖 書 及 備 品 並 未 收 入 金 繰 越 金	32 172.25
1. 特 別 當 座 預 金	4 192.95	1. 假 受 金	2 149.86
1. 當 座 預 金	11 650.02	合 計	201 912.91
1. 圖 書 及 備 品	5 925.22		
1. 支 部 勘 定	1 576.00		
1. 未 收 入 金	26 247.03		
1. 現 金	182.09		
合 計	201 912.91		

財 産 目 録

資産負債對照表資産之部と同一に付省略す。

會 告

昭和 19 年度土木學會役員氏名報告

會 長	工學博士	鈴 木 雅 次君	(新任)
副會長	工 學 士	內 海 清 溫君	(留任)
同	工 學 士	佐 土 原 勳君	(新任)
常議員	工 學 士	伊 藤 令 二君	(新任)
同	工 學 士	石 川 榮 耀君	(新任)
同	工 學 士	岩 澤 忠 恭君	(留任)
同	工 學 士	江 藤 智君	(留任)
同	工 學 士	大 川 一 郎君	(留任)
同	工 學 士	大 森 義 文君	(新任)
同	工 學 士	久 保 讓君	(留任)
同	工 學 士	黑 田 靜 夫君	(留任)
同	工 學 士	齋 藤 久 彌君	(新任)
同	工 學 士	淨 法 寺 朝 美君	(留任)
同	工 學 士	下 山 武 夫君	(新任)
同	工 學 士	杉 戶 清君	(新任)
同	工 學 士	高 木 義 照君	(留任)
同	工 學 士	土 井 源 三 良君	(留任)
同	工 學 士	德 善 義 光君	(留任)
同	工 學 士	藤 芳 義 男君	(留任)
同	工 學 士	星 埜 和君	(新任)
同	工 學 士	星 野 陽 一君	(新任)
同	工學博士	本 間 仁君	(新任)
同		正 子 重 三君	(留任)
同		水 谷 鏘君	(新任)
同	工 學 士	山 岡 包 郎君	(新任)
同	工 學 士	吉 原 正 明君	(新任)

會 告

昭和 18 年度土木賞牌受賞者報告

土木學會誌第 28 卷第 7, 8 號及第 29 卷第 2, 7 號登載

河西橋に關する報告及び研究

正會員 横 道 英 雄君

土木學會誌第 28 卷第 5, 12 號及第 29 卷第 6, 10 號登載

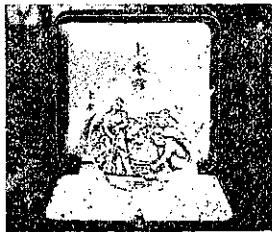
乾燥砂の運動機構に就て

正會員 最 上 武 雄君

土木學會誌第 29 卷第 11 號登載

コンクリートの壓縮に依る内部應力を 求むる新試験法

正會員 赤 澤 常 雄君



土 木 賞 牌

就任の辭

會長 鈴木 雅 次

此度圖らずも會長に選舉していただき、洵に光榮に存ずると共に、願みて深く恐縮に堪へない處である。

私は最近の過去一年間を、黒河内前會長の驥尾に附して、本學會の會務に聊か關係し來つた爲めに前會長が日頃極めて熱心に、會務に御盡力くだされし事を常に拜見し、又よく承知してゐるが故に此度前會長御退任に當り、今更に日頃の御勞苦に對して、感謝の念こゝに新なるものがある。

扱て本年は、今や我が國が興廢死生の關頭に立つ容易ならざる事態に直面してゐる。そして學會の消長も亦國運の盛衰と其の軌を一にすべきは、言を待たない所であるが故に、本年は學會自身にとつても、實に容易ならざる時と思ふ。

然も苛烈なる戦局の推移に従ひて、本學會々務の遂行上に、幾多の障礙の伴ふべきは、豫想に難くない。例へば空襲は必至と呼ばれて居るが、假に本土に大規模の爆撃が始まるとすれば、其の時から直に日常會務を行ふ上に、種々の困難と支障とを生ずる事と思ふ。

然し斯様な硝煙彈雨の眞たゞ中、國家興廢の分かれんとする時こそ、本學會本來の使命たる其の學問と技術とを通じての、「土木報國」のその崇高なる使命を強力に遂行すべき事が、我が一萬幾千會員舉りて最も熱望する所であり、又その明かなる總ての意志でもあると共に、勿論國家の學會に對する強い要請に外ならぬと信ずる。

そして又一方に於ては、本學會が遠く大正三年の創立に孤々の聲を擧げてより、生々發展將に三十年、茲に過去の光輝ある本會の歴史を回顧し、更に之より先き益々伸び行く、光榮の將來を祈願すべき、紀念の年にも當つてゐる。

かように今年には本學會にとり、種々なる意味に於て實に多事多端の歳であるが、私自身は洵に不學淺才、至らざる所甚だ多きを以て、何卒先輩の各位と會員の各位との絶大なる御支援と忌憚なき御鞭撻とに依りて、私の全力を本學會に捧げたいと思ふ。